

<b>フルバリネット水和剤</b> <b>マブリック水和剤20</b>	<b>取扱メーカー：</b> クミカ、一農、琉産  <b>原体メーカー：</b> 日農
<b>成分：</b> フルバリネット〔ピレスロイド系〕……………20.0%	<b>性状：</b> 類白色水和性粉末63 $\mu$ m以下 <b>毒性：</b> 劇物 <b>消防法：</b> —

### 【品目特性】……………

- 果樹、茶樹、野菜などのチョウ目、コウチュウ目害虫の他、アブラムシ類、ハダニ類にまで高い防除効果があり、適用害虫の幅が広い。
- 各種アブラムシに対して低濃度で安定した防除効果を示し、有機リン剤の効果が不十分な種類にも有効である。
- 果樹・茶樹で問題になっているチャノキイロアザミウマに対して優れた防除効果を示す。
- 低温時でのハダニ類と他害虫との同時防除が期待できる。（ハダニ類に適用を持つ初めての合成ピレスロイド剤だが、ハダニ専用剤ではない。高温時のハダニを対象とした使用はさける。）
- ミツバチに対し毒性が低く、散布液液が乾くとさらに安全性が高まるので、開花期前後の防除が可能である。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

- 害虫の発生初期を中心に、作用性が異なる他剤とローテーションをはかりながら散布する。
- 浸透移行性はないので、十分な液量で、作物全体にかけムラのないよう散布する。
- 夏季高温時のハダニ防除では、残効が短い場合など効果にフレが生じることがあるので、ハダニ類を主体とする防除はさける。
- りんごでは、シンクイムシ類、キンモンホソガを主体とした防除を基幹に、発芽、展葉期にはアブラムシを主体に使用する。
- なしでは、新梢伸長期を中心にシンクイムシ類、ナシチビガを主体とした防除を基幹にアブラムシ類、ハダニ類の同時防除を考える。
- かんきつでは、チャノキイロアザミウマ、カメ

ムシ類を主体とした防除を基幹にする。訪花害虫にも有効である。

- 茶では、チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメコバイなどを主体とした防除を基幹に、萌芽期害虫の総合防除を考える。
- 野菜、花き、花木では、アブラムシ類に対し優れた効果を持っており、チョウ目害虫を含めた総合防除を考える。
- キンモンホソガ、ミカンハモグリガなど潜葉性害虫に対しては、幼虫の潜葉後では効果が劣るので、成虫の発生初期から盛期に散布する。
- カイガラムシ類、ピレスロイド抵抗性コナガ、チャノホコリダニには防除効果が劣るので、有効な薬剤とローテーションを組む。
- くりのクリタマバチには羽化脱出期、クリシギゾウムシには梨果前にそれぞれ散布する。

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさける。（ボルドー液と混用した場合、残効性は10日前後に減少する。）ボルドー液を散布後マブリックを散布する場合は4日あける。マブリックを散布後はボルドー液の散布をさける。
- 花きに対して、高濃度での散布は時に水和剤による白い汚れを取穫物に残すことがあるので、生育前期に所定の希釈倍数を守って散布し、生育後期の散布はさける。また、薬害の心配の少ない薬剤だが、試しに少面積にまいて薬害のないことを確かめたうえで広面積に散布する。
- 天敵昆虫に対し比較的影響が強いため、天敵主体の防除が行われている園では使用をさける。
- ミツバチに対して毒性は低いが、低温条件下で直接散布すると、ミツバチの活動能力が相対的に低いこともあり殺虫力を示す。従って、薬液が乾燥すると安全性が高まることを考えて、朝や夕方

のミツバチが活動していない時に散布するなどして、その保護をはかる。

●適用作物（おうとう、花き）の葉害などの注意は「葉害注意事項解説」を参照。

●適用外作物（すもも、あんず、ネクタリン）への葉害などの注意は「葉害注意事項解説」を参照。

●共通注意事項8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

## 【安全対策上の注意】 .....

●摘果・収穫等の作業の際は、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。

●皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。

●のど・鼻・皮膚などを刺激する場合、またカユミを生じる場合があるので注意する。特にハウス内では刺激症状が強くなるので使用しない。

●魚類に強い影響を及ぼすおそれがあるので特に注意。

●甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。

●散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。

●共通注意事項6. 街路・公園・堤とう等で使用する場合の注意事項を参照。



## 【適用と使用法】 .....

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	フルバリネットを含む農薬の総使用回数
りんご	キンモンホソガ シンクイムシ類 アブラムシ類 リンゴハダニ ナミハダニ ヒメシロモンドクガ ハマキムシ類 ギンモンハモグリガ モモチョッキリゾウムシ	2000 倍	30 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
なし	シンクイムシ類 ナシチビガ ハダニ類 ナシホソガ カメムシ類 ナシグンバイ ハマキムシ類 ニセナシサビダニ					
	アブラムシ類	2000 ～ 4000 倍				
	かんきつ (みかんを除く)	コアオハナムグリ ケシキスイ類 ケムシ類	2000 倍			
カメムシ類 アブラムシ類 ミカンハモグリガ チャノキイロアザミウマ		2000 ～ 4000 倍				
みかん	コアオハナムグリ ケシキスイ類 ケムシ類	2000 倍	21 日前 まで			
	カメムシ類 アブラムシ類 ミカンハモグリガ チャノキイロアザミウマ	2000 ～ 4000 倍				

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	フルバリネットを含む 農薬の総使用回数
かき	カキノヘタムシガ	2000 倍	30 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	カメムシ類	2000 ～ 4000 倍				
	イラガ類					
	チャノキイロアザミウマ					
ミノガ類	4000 倍	21 日前 まで				
もも	モモハモグリガ シンクイムシ類 ハダニ類		2000 倍			
	アブラムシ類		2000 ～ 4000 倍			
うめ	アブラムシ類 ケムシ類		4000 倍			
おうとう	オウトウハマダラミバエ					
びわ	アブラムシ類	14 日前 まで				
キウイフルーツ	キイロマイコガ	2000 倍		7 日前 まで		
くり	クリシギゾウムシ クリタマバチ クリイガアブラムシ					
	すいか メロン		ハダニ類 アブラムシ類	3 日前 まで		
はくさい	アオムシ コナガ ヨトウムシ タマナギンウワバ		1000 ～ 2000 倍	21 日前 まで		
	アブラムシ類	2000 ～ 4000 倍				
キャベツ	アオムシ コナガ ヨトウムシ タマナギンウワバ ハスモンヨトウ	1000 ～ 2000 倍	14 日前 まで	3 回以内	3 回以内	
	アブラムシ類	2000 ～ 4000 倍				
だいこん	アオムシ コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	2000 倍	2 回以内	2 回以内	2 回以内	
	アブラムシ類	2000 ～ 4000 倍				
なす	ハダニ類 アブラムシ類 オンシツコナジラミ	4000 倍	前日まで			
	アブラムシ類 オンシツコナジラミ					
きゅうり	アブラムシ類	8000 倍				
いちご	アブラムシ類	8000 倍				

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	フルバリネットを含む 農薬の総使用回数
かぼちゃ	アブラムシ類	4000 倍	21 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
レタス			7 日前 まで			
非結球レタス			21 日前 まで			
たまねぎ	ネギアザミウマ	2000 ～ 4000 倍	7 日前 まで	3 回以内		3 回以内
さやえんどう	ヒラズハナアザミウマ	4000 倍	前日まで			
やまのいも	アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ	2000 ～ 4000 倍	7 日前 まで	2 回以内		2 回以内
茶	チャノコカクモンハマキ カンザワハダニ	1000 ～ 2000 倍	摘採 21 日前 まで			
	チャノホソガ ツマグロアオカスミカメ	2000 倍				
	ヨモギエダシヤク チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	2000 ～ 4000 倍				
	コミカンアブラムシ	4000 倍				
にんにく	ネギコガ アブラムシ類	2000 倍	3 日前 まで			
ばれいしょ	アブラムシ類	4000 倍	7 日前 まで			
ばら		2000 ～ 4000 倍	発生初期			
	ハダニ類	2000 倍				
きく	アブラムシ類	2000 ～ 4000 倍				
ストック	コナガ	2000 倍				
カーネーション	ハダニ類 ヨトウムシ					
	アメリカシロヒトリ					
さくら	チャドクガ					
つばき類	ハダニ類					
宿根かすみそう	アザミウマ類				4000 倍	
トルコギキョウ						